

## 令和4年度第2回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和4年10月25日(火)午後3時～午後4時30分
- 2 開催場所 浜松科学館 セミナールーム
- 3 出席状況  
 委員 晝馬るみ委員、近藤潤子委員、中村朋子委員、  
 白岩伸也委員、松井里華委員、飛田ひさ子委員、  
 村上剛委員、澤根緑委員、山本巖委員  
 事務局 鈴木生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長、  
 遠部指導主事、萩原主任、神田浜松科学館副館長、  
 杉本浜松科学館GM、上野元嗣チーフエデュケーター  
 欠席委員 松本孝久委員
- 4 傍聴者 0人(一般:0人、記者:0人)
- 5 議事内容  
 1 「浜松科学館」の取り組みについて  
 2 「子どもの才能を伸ばす課外講座」等について  
 3 生涯学習事業の進捗状況について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ  
 遠部佳代子、今井千晶
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
 録音の有無 無
- 8 会議記録

1 開会

2 議事

(1) 「浜松科学館」の取り組みについて

■事務局から、資料に基づき「浜松科学館」の取り組みについて説明

(晝馬るみ委員長)

ただ今の神田副館長からの説明と、浜松科学館の視察を通しての感想やご意見を伺いたい。

(白岩伸也委員)

今回初めて浜松科学館に来た。予想に反して、とても社会教育的な施設である

と感じた。科学館は地域に限定されない普遍的な世界を目指すようなものかと思っていたが、そうではなく、浜松市をめぐる自然と産業との関係性が展示に表れていてすごく勉強になった。また、ボランティアを通じて、地域との連携を図っているところも、学びになった。

(澤根緑委員)

子供の小学校卒業式の際にいただいた入場券で訪れたことがあるが、それ以降は来ることがなかった。もっと子供たちを連れてきていたら、理数に興味を持ってくれたかもしれないと思う。孫をぜひ連れて来たい。幼い子たちも楽しめるキッズ・サイエンスランドもあるようなので、そこへまず、第一歩踏み入れたい。本日も小学生が校外学習で訪れていたが、素晴らしいことだと思う。コロナ禍でなかなか厳しいのかもしれないが、赤佐小の子供たちが科学館の外で楽しそうにお弁当を食べて、それからプラネタリウムを見たときに、ワーッと歓声があがった。子供たちの素直な反応がとても印象的だったし、子供たちにとって、素晴らしい経験になったと思う。親に連れてきてもらってれば何回か来ている子もいるかもしれないが、なかなか来られない子もいると思うので、学校での校外学習が第一歩になって、浜松科学館を知るいい機会になるとよい。

(晝馬るみ委員長)

プラネタリウムを見学させていただいたときの子供たちの反応が本当に素直で、星空が現れたときの歓声は、自分も童心に返ったようだった。この体験は、子供だけではなく大人も忘れていた感覚ではないかと思う。浜松科学館がリニューアルしてよい施設ができたと聞いても、わざわざ来る機会がない大人たちもいるかもかもしれないが、子供が学校の校外学習で科学館を訪れることによって、また来たいと願う子供たちの思いにその大人たちも背中を押され、再び科学館を訪れるきっかけになるかもしれない。

(中村朋子委員)

科学館スタッフの皆さんの熱意を感じた。だからこそ、これだけ素晴らしい展示があり、多くの体験をさせていただけるのだと思う。展示一つ一つにコンセプトがしっかりと設定され、ストーリーができてることがすごいと思った。これこそが子供たちだけでなく大人も感動するところにつながっているのだと思う。

プラネタリウムには、地元の風景が映し出され、学校で夜空を見ているという感覚になり、技術が進歩していることを感じた。この素晴らしい科学館でいろいろな経験をすることで、子供たちが刺激され、将来の夢に向かっていけるのではないかと思う。私も地元の学校に関わっているので、科学館の素晴らしさを学校に伝え、ぜひ校外学習で足を運んでもらいたい。

(山本巖委員)

私は、リニューアルされてから来たのは2度目である。昔の科学館も来たことがあるが、しっかりとした形で、リニューアルされたと感じた。市内小学校の科学館利用率は60%と、非常に高い利用率になっており、素晴らしい。

定年退職後2年間、幼稚園の園長をやっていた時、秋の遠足に科学館が候補に上がったが、職員から園児には科学館はまだ難しく、無理があるのではないかという声があり候補から下げられた。しかし、今日実際にプラネタリウムを見させていただき、幼稚園児であっても夢を見させることができると感じたので、あの時の子供たちに見せてあげればよかったと思った。園児にとって2階の展示は少し難しいが、1階は自然とふれ合える空間となっているので、もっと園児の利用も増えるといい。

(晝馬るみ委員長)

プラネタリウムのプログラムで、幼稚園・保育園児を対象としたものはあるか。

(事務局)

子供向けに易しく解説しているキッズプラネタリウムというプログラムがあり、遠足で利用してもらっている。特に卒園遠足での利用が多い。

(晝馬るみ委員長)

小学校就学前の子供たちにはプラネタリウムを中心に館内を見てもらい、小学校入学後にまた改めて来場し、2階の展示も楽しんでもらうというのもよいのではないか。

(近藤潤子委員)

リニューアルしてから2、3回来ているが、今回初めてプラネタリウムを観た。子どもが引き込まれるすばらしい内容だった。サイエンスショーも、子供に親しみやすい説明と内容で、子供達が目を輝かせていた。大人たちも引き込まれてしまい、とてもよかった。

地域の育成会で、11月に星を眺めるイベントの開催を予定している。有志の方から望遠鏡を貸していただいて、小学校のグラウンドで説明をしてもらいながら親子で星を眺めることになっている。そこで科学館のプラネタリウムをぜひ紹介したいと思う。小学校低学年は、理科の授業や科学の実験を楽しみにしている子が多いので、科学館がその楽しみをさらに膨らませるきっかけになり、理科や科学への興味・関心がさらに深まればよいと思う。とてもすばらしい施設である。

(晝馬るみ委員長)

理科離れが進んでいる中、あれはどうなっているのだろう、どういう仕組みになっているのだろうと、想像したり予想したりしながら、五感を全部使って体験ができることが一番の学びにつながると考える。体験を重視している浜松科学館の展示は、非常にすばらしいと思う。

(村上剛委員)

初めて来た。外観はインパクトがあり存在は知っていた。上野さんのように説明をしてくれる方がきちんとついていないと、一つ一つの展示について理解することは難しい。すばらしい施設で、いろいろな仕組みがわかるように工夫してあるものの、解説をしてもらえないとなかなか理解がしにくいのは、少し残念である。自分が理解できない展示は通り過ぎてしまう。展示を理解しても

らうための仕組みや工夫はされていると思うが、まだまだ一般の人でも理解できるレベルではないように思う。展示解説ツアーを増やしたり、説明してくれる職員やボランティアを増やしたりするとよい。入場者にこのすばらしい展示を理解してもらうための一層の努力をお願いしたい。今後、自分の子供や孫が浜松に遊びに来た際には、ぜひ科学館に連れて来たい。

(飛田ひさ子委員)

私も初めて入った。ここから遠い高台地区に住んでいるので、広報でしか科学館という名前は見ない。よい施設だと予想はしていたが、今まで足を運ぶまででいかなかった。実際に来てみて、とてもすばらしい。一度入ったら魅力いっぱい、わくわくが止まらない。浜松という町を全面的に出して、これこそ浜松市の財産だと思った。しかしながら、これだけすばらしい施設であるのに、PRが足りないと思う。今日も場所はすぐにわかるだろうと思って車で来たが、迷ってしまった。周辺の案内が少ないように思う。浜松駅からも遠いと思っていたが、近かった。だからこそ駅からの案内やPRがもっとほしい。駐車場も分かりにくく、案内も分かりづらい。科学館に来て、そのついでにちょっと街中に寄ろうというふうになるといいと思う。また、本日のように展示案内の方がいてくれればさらによいと思う。科学館はすばらしくて、今日だけで虜になった。

(晝馬るみ委員長)

子供たちも浜松の魅力を再発見できる。科学館は、市外の人にも自慢できる場所であると思う。

(2)「子どもの才能を伸ばす課外講座」等について

■事務局より子どもの才能を伸ばす課外講座について説明

(晝馬るみ委員長)

本当にすばらしい取り組みがなされている。この浜松から世界大会へ出るような取り組みをご報告いただいた。この他の事業についても、プレスリリースをその都度行っているのか。

(事務局)

その都度報道発表している。特にWROについては、決勝大会の開催に関わっていて、市長表敬も行っている。

(澤根緑委員)

WRO決勝大会について、各学校にも情報を発信したのか。

(事務局)

市内の小・中学校にポスターの配布を行った。

(澤根緑委員)

ポスターだけでは、なかなか知ってもらえないと思う。スマホの時代なので、ぜひSNSも活用して案内してほしい。浜松市には本当にすばらしい子供がたくさんいると思うし、埋もれている才能がそのままではもったいない。さらにパワーアップさせてあげてほしい。親へのアプローチと子供の気持ちを盛り上

げる工夫もしながら進めていってほしい。

(白岩伸也委員)

才能教育は学校教育の中でのことだと思っていたが、課外講座にもあるのは驚いた。選抜試験があるという部分が気になったが、ITキッズプロジェクトではどの位の倍率になるのか。

(事務局)

160～180名の方が応募し、24名が合格なので、6～7倍である。

(飛田ひさ子委員)

応募してくれる人がたくさんいるということか。

(事務局)

小学校3年生全員にチラシを配り、例年160～180名の応募がある。

(晝馬るみ委員長)

合格できなかったが、学びたいという子たちへの受け皿はどう考えているのか。

(事務局)

一時期は定員を増やす話にはなったか、講師確保の問題もあり、この事業の中だけでは難しかった。民間でもロボット塾はあるので、そちらにご参加してもらえればと思う。

(山本巖委員)

会場はどこになるのか。

(事務局)

ITキッズプロジェクトは、静岡大学。ダヴィンチキッズプロジェクトは、静岡大学教育学部附属浜松中学校。トップガンは、イベントの開催で科学館が会場となっている。

(山本巖委員)

意欲ある子供たちにとって参加しやすい環境を…と考えると、中心部だけでなく、いろいろな区で開催してもらえるとよい。

(白岩伸也委員)

ITキッズプロジェクトは、1回3,000円で20回、6万円の授業料がかかる。民間のロボット塾と比べたら安いとは思いますが、才能以外にもハードルが幾つかあると思うが、そこはどうにかならないか。

(事務局)

市としては、講座の運営に必要な事業費を負担している。

(3) 生涯学習事業の進捗状況について

■事務局より、生涯学習事業の進捗状況について説明

(晝馬るみ委員長)

今後の地域と学校とが連携を深めるためのご意見をお願いしたい。

(澤根緑委員)

コミュニティ・スクールが市内で次々に始まっているが、新津地区は今年度がスタートだった。新しいことをやるのではなく、今までやってきたことの中で継続できるようなことを、少しずつ地域と連携して進めていけたらよいと思

っている。新しいことを考えようと思うと、企画するのは大変なである。学校にも負担になるので、すでにやっていることに工夫を加えてみることを、学校運営協議会で提案する予定である。「地域の子供は地域で育てる」という思いが根本にあるので、地域の目が子供たちに向くようにしていけたらよいと思う。

(晝馬るみ委員長)

今あることを中心に、さらにそれを膨らめていくことが、始まったばかりのコミュニティ・スクールを軌道に乗せるために必要である。課題は何であると考えるか。

(事務局)

課題だと考えるのは、地域人材の世代交代である。今までやってきたことを地域の方の力を借りながら継続していくにあたり、世代交代がうまくいっていない地域もあり、上手く進められないところもある。地域に核となる方がいるところは世代交代も進むが、なかなかスムーズに世代交代できない地域も多い。生涯学習人財育成事業で目指しているのは、新しい人材、世代交代できる人材を地域から発掘することである。地域や学校を手伝ってくれる人を少しでも増やしていきたい。

(晝馬るみ委員長)

協働センターとの連携が核になってくると思うが、協働センターと学校との連携がうまくいっているところと、そうでないところの地域差が出てきている。学校の中では、保護者はどんどん交代していく。協働センターが持っている情報の中で、その時々適した人材につなげてもらえるとありがたい。やはり人と人のつながりが大切だと思う。核となる人が、地域の中に入れてくれることがこのコミュニティ・スクールを軌道に乗せるために欠かせない。だからこそ、学校と協働センターとのつながりや連携を深めていくことが重要だと思う。

(澤根緑委員)

地区社協の存在も大きいと思う。

(飛田ひさ子委員)

今、30代～50代の子育て世代お母さんたちに何かの役をやらしてもらおうとすると、ものすごく拒否反応が出て、全然受けようとしてくれない。この忙しい、子育て世代の人たちの感覚を大事にしながら進めていかないと、次につながらないと感じる。私達のような60代以上の世代は、学校のPTA活動や地域の活動等に係わった経験のある人も多く、地域でボランティアを探すときに、声をかければ協力してくれる。しかし、その下の世代に声をかけても、自分に関係ない活動には一切協力が得られない。ボランティアという前に子育て世代の人達が学ぶ機会を増やすことが必要だと思う。この年代の人たちの心が休まり、行ってみたいと思える内容の学びがあり、そこに来た人たちが集い、つながりを持つことから始められればよいと思う。今の子育て世代は、忙しく余裕ないように感じる。そのひずみが子供に来ていて、可哀そうに感じる。だからこそ、子育て世代の人たちが地域でほっとできるように、まずは手助けしたい。

(事務局)

小学校入学前の保護者たちが、入学前から学校に足を運びやすくなるような仲間づくりができるとういことを考える。コロナ禍で以前よりもさらに横のつながりがなくなっている。ちょっと講座に参加してみよう、ボランティアを始めてみよう、誰かとつながろうと思っても、乳幼児がいると参加が難しいという声も聞いたので、2月3日に開催する「気軽に♪生涯学習ボランティア講座」では、託児を用意する。働いていない地域の人たち、乳幼児のいる保護者たちも気軽に参加できるようにして、横のつながりを作れるような講座にしたいと考える。

(飛田ひさ子委員)

横のつながりができると、地域で話せるようになる。今ボランティアで地域に協力してもらえるのは、横のつながりがあったからである。

コロナ禍におけるコミュニケーションツールとして、ますますスマホへの依存が強くなり、連絡は言葉ではなく、スマホの文字になった。SNSに載っていない情報は信用しなくなっている。時代は動き、今までと同じようにはいなくなっている。

(澤根緑委員)

「浜松市子育て情報サイトぴっぴ」は、スマホで子育てに係わる様々なことを検索できて、重要な情報源になっている。アンテナが高い母親たちが、その情報を基に子育て広場やイベントに参加してくる。未就園児のいる保護者にとっては、講座等に参加する場合、託児が必須である。両親が近くにいれば預けられるが、核家族が多く、転勤で浜松に移住してきた多くの人たちは知り合いも少ない。だからこそ、託児を充実させることで、講座等への参加者も増えるはずである。

(晝馬るみ委員長)

一歩踏み出せるような、魅力あるイベントや講座を発信していただき、そこへ行ってみたら人とのつながりってこんなにいいものだと感じられるようになるとよい。スマホの中だけのつながりではなくて、対面でつながることで、いろいろな人たちと話せるようになり、世界が広がっていく。そんな取り組みが増えていくとよい。

### 3 研修会報告

■ 6月28日開催の社会教育基礎研修について、村上剛委員、飛田ひさ子委員、山本巖委員より報告

■ 7月8日開催の指定都市社会教育委員連絡協議会について、晝馬るみ委員長より報告

### 4 連絡事項

■ 事務局から以下の内容について連絡

- ・ 令和4年度全国社会教育研究大会広島大会について

- ・第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について
- ・次回開催予定  
浜松市と大学の連携事業 成果報告会 令和5年2月22日

5 閉会